

ガンバレ、消防音楽隊！ 110話

10月も今日で終わり、明日から11月です。

(早いなあ。

今年もあと2か月しか残っていないですね(*_*))

この時期ってなんとなく気忙しくって落ち着かない気分です。

日に日に気温も下がっていくし、正直あまり得意な季節ではありません。

自主企画演奏で一息ついた感が漂っている隊員達ですが、

前話でもお話したように、

「次はどうするん？」なんて会話も良く聞かれます。

「クリスマス？」とか「春先？」とか、

時期と場所を考えて色々相談をしてはります。

しかし、ふと気付いたのですが、演奏曲についての会話が殆どありません。

(ホンマは、曲目の話しも出て普通ちゃうん?)

前回の曲を使いまわしする事を、当然のように前提として話ししているのです。

新しい曲をする気は全くないみたい(^_^;))

そこから考えると、

今から準備して「クリスマス時期」でも間に合う可能性はあるのですが、

クリスマスに相応しい曲は演奏出来ないって事になります。

(わざわざクリスマスに演奏するのに、クリスマス曲を演奏しないのも、

どうなんかなあ？

やっぱり避けられないですよねえ?)

クリスマスの頃は、通常でもクリスマス・コンサートがあちこちで開催される上に、

12月は隊員達もそれぞれ予定があるでしょうから、調整もちょっと難しいかと。

となると、やはり、「春先」が有力ではありますが・・・。

ん〜ん(>_<)

自主企画演奏を行った事で、随分と雰囲気も変わりました。
自分達でも、頑張れば出来るんだと。
少しだけ、深い霧の中から抜け出していけそうな、
それでいて、気を抜くと、また引き戻されそうな、
微妙な感覚です。

もう少し煮詰めてみたいとは思っております。

(でも、「新しい曲もしなアカンってー！」
指揮者の私は思うのですが、誰も答えてくれません(T_T))

ガンバレ、消防音楽隊！ 1 1 1 話

前月（1 1 0 話）で選曲のお話をしましたが、
よくよく考えてみると、9月の企画演奏で見送りになり、
「皆で『次回へ！』」と決めた曲がある事を思い出しました。

昨年のこの時期には、期待して練習に臨む意気込みを書いております。
（1 0 0 話、1 0 1 話参照）

皆さんも、
そして当の私も含め、音楽隊員さえも忘れちゃっている、
『ボレロ』と『吹奏楽のための第一組曲』です。
（隊員達は、私が思い出さない事を願っていると思います。）

同時に楽譜を購入した3曲のうち、
「千の風に乗って」だけは本番で演奏しましたが、
この2曲は練習だけで終わってしまっています。

やはり、今の練習量や練習環境では無謀なチャレンジだったのかなあ？

でも、あきらめないのが私の信条。

仮に、次回でも演奏出来なくても、練習は続けてしなければ。
まー、音楽隊員が歯抜け状態では、隊員も練習にならないのですが。

特に『ボレロ』は旋律を次の楽器へとつないでいく曲層ですので、
途中から旋律が無くなってしまうような人数での練習では気の毒と思います。

しかし、この2曲の楽譜には、
それぞれ「サンプル CD」なるものが同封されておりました。

購入した楽譜をプロが演奏している録音です。
もちろん、音程も進行も楽譜どおり。

ただ、CD ですので、

「PLAY ボタン」を押しさえすれば、どんどん演奏して行きます。
待ってはもらえません。

(って、当たり前ですが・・・。)

それと、「テンポ」を遅くしたりも出来ません。
(って、それも当たり前です、CD なんだから。)

兎に角、
CD に合わせて演奏出来ないかなあ？

次の練習で言ってみようと思います。
(多分、隊員に拒絶されると思いますが。)

どちらも、いい曲なんだけどなあ。
「ずっと次回へ！」ってなりそうです(;_;

ガンバレ、消防音楽隊！ 第112話

前回、「CD でボレロ」と書きました。

練習に行って、なんだかんだと他の事をしておりましたが、
「あっ！」っと思ひだし、まずは、CD を・・・。

あれ？CD ないよ(・_・;)

いつでも、誰でも聴けるように、
ホワイトボードの所に置いていたのですが、
長いこと気にしていなかったので、
紛れてしまったようです。

ゴソゴソ、CD 探します。
(よし、見つけー！)

次は、CD プレーヤー・・・??
ない！！(・・?)

これも、いつでも、誰でも使えるように練習室に置いてあったのですが。。。

アチコチ、ウロチョロ。CD プレーヤーを探します。
(あった、見つけー！)

CD が再生出来る事を確認して、
> 「ボレロしようよ。」

ピクっとした隊員も居たような気がするのですが、
スルーされてしまいました(+o+)

> 「全員そろってなくても、CD に合わせて演奏出来るし。」
全員ノーリアクション(.-.)(-.-)(‘_’)

> 「次回にするって事になってるし。」

譜面をパラパラしだして、ボソボソなんか話してます。

結果出てきた答は

<「次の、次で。」

>「次の、次でするんやね？」

<「の、次かも。」

アカンわ。

永遠に次回送りになりそうです(;_)

オマケです：φ(^^)ノ

ジャン!!☆年末恒例(?)

この一年間の活動をサラッと振り返るコーナー☆

◎出演内容 1回 累計出演回数 201回になりました！

◎今年演奏した曲：千の風にのって、アメージング・グレース、涙そうそう、風になりたい、雷神、錨を上げて

長い間かかりましたが、やっと出演回数が1回増えました。

とても小さな歩みですが、音楽隊にとってはとても大きな一歩です。

これからも、少しずつですが、この歩みを止めずに進んで参りたいと思っています。

古紙配分率偽装、燃料サーチャージ、薬害肝炎救済法、NHK インサイダー、おバカキャラ、世界のナベアツ、橋下知事、メタミドホス、スハルト、年金特別便、力士暴行死、イージス艦衝突、錦織、博士号謝礼、特定困難年金記録、チベット、きぼう、総裁空席、「誰でもよかった」、広川太郎、アーサー・C・クラーク、ガソリン国会、サイバンインコ、後期高齢者制度、聖火リレー混乱、一般財源化、証券社員インサイダー、ゆるキャラ、クルム伊達、チャールトン・ヘストン、サイクロン、四川大地震、オスロ・プロセス、SAS 休止、ささやき女将、秋葉原無差別殺傷、朝バナナ、岩手・宮城内陸地震、居酒屋タクシー、名ばかり管理職、イブ・サンローラン、偽装ウナギ、教委採用汚職、洞爺湖サミット、原油史上最高値、一斉休漁、iPhone、竹島記述、野茂英雄、ゲリラ豪雨、女 85.99 歳・男 79.19 歳、くいだおれ太郎、桑田・清原、埋蔵金、赤塚不二夫、グルジア紛争、07 厚生年金 5.6 兆円赤字、「何も言えねー」、「よし、よし、よーし!」、ポール・ニューマン、「私もあなたの作品の一つです」、大麻力士、汚染米、リーマン破綻、厚生年金記録改ざん 69000 件、メラミン、「あなたとは違うんです」、王貞治、小泉純一郎、中山国交相、「ごね得」、緒方拳、

フランク永井、個室ビデオ店、ノーベル賞、テロ支援国家解除、ジクロールボス、シアン化合物、終値 7162.90 円、高橋尚子、三年後、航空幕僚長、「ふしゅう」、「みぞゆう」、ポニョ、筑紫哲也、小室哲哉、引きずりひき逃げ、定額給付金、元事務次官宅襲撃、タイ航空占拠、マグロ 2 割削減、同時多発テロ、石川遼、0 系、RED CLIFF、ビッグ 3、F1 撤退、書記官振り込め詐欺、COP14、派遣切り、ノン・スタイル、ガザ空爆、

バラク・オバマ氏は「WE CAN CHANGE」と語りかけ、
アメリカ次期大統領になりました。

「WE CAN CHANGE」は、
同氏に投票する事にも直結するフレーズだったと思います。
政策や日本への影響については今後より明確になるとは思いますが、
初の黒人大統領誕生へのプロセスは劇的でした。

私は、投票するだけでは、

「CHANGE」の本当の意味ではないようにも感じています。

閉塞した事態に疲弊してゆく現在を打破する為には、

更に能動的な行動が必要なのだと思うのです。

特に日本に住む私たちは、規制される事に慣れていると言うか、

受動的になってしまう素養が根付いてしまっているように感じます。

反体制が良いとは全く思っていません。

でも、批判を口にしていただけでは、

何も進展しないのではないかと。

自分自身をも戒め、「能動的な部分」が欠けているように感じています。

今年を象徴する「今年の漢字」は「**変**」でしたね。

それと「WE CAN CHANGE」。

これらの言葉から、皆さんは何をどう感じられるでしょうか？

今年も神保彰さんとお話しました。

世界中を飛び回っている超売れっ子にも関わらず、

全く変わらないお人柄に敬服しきりです。

さて、

この音楽隊をバックアップし、また心配をしてくれている大勢の皆さん。

いつもありがとうございます。
今年は何演奏を行い、ちょっぴり前進を始めました。
でも、気を緩めるとすぐに止まってしまうかもしれません。
どうか、これからも応援をお願い申し上げます。

私個人的には、自分自身に気付く一年でした。

それでは皆さん、

2009 年も宜しく願いいたします！

KASHIWARA HABIKINO FUJIIDERA FIRE PROTECTION DISTRICT

(FIRE MAN'S BAND Conductor & Drum Major)

Wishing you the best

BATTALION CHIEF YOSHIFUMI KAWAI

どうか良いお年を(^_^)/

ご意見、ご感想は、

kasisyo@khf119-osaka.jp まで

メール下さいますよう、お願い致します。

m(_)_m



ガンバレ、消防音楽隊！ 第113話

今回は、ちょっと消防音楽隊から離れますが、
「音楽がらみ」と言うウルトラ拡大解釈をお許し頂きたいと思います。

ではでは、
行って参りました！！

RYYTHM&DRUMS MAGAZINE FESTIVAL

(第1回リズム&ドラム・マガジン・フェスティバル)

時は、1月24日(土) 25日(日)、
場所は、ゆりかもめ線 有明テニスの森駅前の「DIFFER有明」、
国内外のドラマーやパーカッショニスト達が、
2日間で19ユニット(総勢約35名)も参加する一大イベントです。

実は、以前「ガンバレ…」でもお話いたしました、
世界3大ジャズフェスの一つ、
「スイス・モントルー・ジャズ・フェスティバル」に一緒に行った
矢魔羽社(以下Y社)の高沢さんも会場に居っていると連絡を頂き、
久々にお会いするためにも伺った次第です。
(👉👉👉連載1年記念特別番外編参照して下さいね。)

まず、会場についてビックリ！

RYYTHM&DRUMS MAGAZINE FESTIVALのポスターよりも先に、
格闘技のポスターが目に入って来ました。

(なんか、レスラーみたいな人が仁王立ちのポスターなんだもんなあ(・・?)
会場となっているディファ有明は、格闘技会場で有名なところらしいです。

会場は大きく2つのゾーンに分かれていて、
入口から楽器メーカーや楽器店出店ゾーンです。

いきなりZ社のブースで高沢さん見つけ。

お久しぶりです～。

握手とともに喜びの再会を果たしました。

暫しの歓談の後、早速もう一つのゾーン、ライブパフォーマンスゾーンへ。

扉を開けた瞬間から想像以上の入場者数に再びビックリ！！

スゴイ熱気です。

(因みに、開場2時間後の入場者数は1200人を突破していたらしいです。)

1 日目、TOTALFAT、KOZO&SATOKO、村石雅行、石川直、
スタントン・ムーア、芳垣安洋、シェーン・ガラス、真矢、則竹裕之、神保彰の面々。

(最後は Synchronized DNA で終演と言うサプライズ付きでした。)

2 日目は、所要を済ませてから、夕方に会場に。

大儀見元、スタントン・ムーア、そして今回最大の楽しみにしていたテリー・ボジオです。

(2 日目の他の出演者は、仙波清彦、そうる透、TOSHINAGI、岩瀬立飛、航、
ジョニー・ラブです。)

個々の内容に触れると、特別番外編を組まなければ到底書ききれないので、

今回のお目当てだったテリー・ボジオ (Terry Bozzio) のお話をしたいと思います。

彼のドラム・セットは、バスドラム 8 つ、スネアとタムが計約 30 個、

シンバル約 50 枚、10 以上のフットペダルを包括した、

まさに体が埋まる世界最大の「要塞」ですが、未だ増加傾向にあるらしいです。

(転用する訳にはいきませんので、画像は検索してみてください。驚く事間違えなし(*_*))

当然、楽器、ハードウェアの数は膨大な数に及び、

組み立てには数名のローディーが同時進行で作業を行っても数時間を要します。

最近では、輸送にも莫大な金額と手間が掛かるようになったため、

日本を含む世界各国にドラムセットを保管してあり、

ツアーの際にはそちらを使っているようです。

X-Japan の Yoshiki は、ボジオの上半身裸の演奏に影響を受け、

同じ演奏形態を取るようになったという話ですよ。

(参考: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』、<http://ja.wikipedia.org/wiki/>)

何故こんなに巨大なセットになったのか?

この「要塞」を駆使してどのような事をするのか?

の 2 点を、是非、生の演奏で聴いて見て感じたかったです。

今回のイベントでは、二つのステージを交互に使用するのですが、

前のスタントン・ムーアの演奏が始まる前に、

A ステージにボジオのドラムセットが、

5 m × 3 m 程度の台座に乗って登場しました。

それだけで、「うおおー！」と観客が唸ります。

スタントン・ムーアの演奏が B ステージで行われている間に、

神保彰さんのテクニック枝川さん他数名のスタッフが、
セッティングのチェックを行っています。
スタントン・ムーアの演奏を聴きつつ、A ステージも目が離せないでいると、
B ステージで演奏中にも関わらず、A ステージの袖にボジオが登場！
(エッ、なんで??)
会場の様子を見に来たのかな?と置いていたら、
スタントン・ムーアの演奏が終わるや否や、
「要塞」に腰掛け、ドラムを叩き出しました。

「いきなり始まるのかあ?」と周りの観客も一気に期待が。

しかし、そうではなさそうで、
時々チューニングしたり、セッティングを直して微調整をしています。
15分のステージインターバルを10分以上延長して、
やっとボジオ自身のセッティングチェックが終了。

一旦、ステージから降りて、
紹介映像がバックスクリーンに映し出され、ご本人登場です!

ステージの前まで出て来て深々とお辞儀をするボジオ。
最前列のほぼど真ん中に居た私から、その距離2mちょい。
手を伸ばせば届きそう。(近いぞー!)

そして、いよいよ「要塞」に入り、演奏開始。
(アカン、近すぎて、「要塞」の中のボジオはオデコから上しか見えないよ(>_<))
一気に会場全体が緊張感に包まれます。
どんどん展開して行くボジオの世界。(スゴイ!)

10分ほど演奏して、曲の場面が変わったその瞬間、

あーーー！！

左から3つ目のバスドラムが、叩かれた弾みで前に飛び出し転げ落ちました。
(ひえ～～、DWのバスドラムが…)
スタッフが飛び出してくる前に、
演奏を途中で止めたボジオ自身が転げたバスドラムをセッティングし直します。

思わず駆け寄るスタッフ達。

セッティングがされて、再び「要塞」に入り演奏再開。

こんなハプニングがあると気分害しちゃってるだろうなあ、なんて心配しましたが、世界のボジオはそんな事を全く感じさせない素晴らしい演奏を披露してくれました。

45分間のドラムソロが終了し、またステージの前まで出てきて、

深々とお辞儀してあと、日本語で「ありがとう」の言葉の後、

英語で観客にお礼の言葉。

ボジオの、むちゃくちゃいい人柄にも感動しきりでした。

その夜は、宿に戻り、一人ビール片手に、TV「みゅーじん」を見る事に。

その日は神保彰特集。

「いやあ、神保さん、二日連続でお会い出来ましたなあ。」なんて思ってたら、

先日ボジオと共演した場面もオンエアされ、更に見入ってしまいました。

自分の好きな二人のプレーヤーが、共演している様子にまたまた感動しちゃいました。

(私にとっては、偉人の共演です。)

ああ、自分も、同じような楽器を、同じような年頃に始めたんだけどなあ。

(超凡人の独り言でした。)

来年も、RYYTHM&DRUMS MAGAZINE FESTIVAL がありますように(^.^)

もう1月も今日で終わるのですが、今年初めての更新ですので、

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます

皆様にとって幸多い一年でありますように

m (_) m



ガンバレ、消防音楽隊！ 1 1 4 話

なかなかスッキリしない気候のまま、
花粉飛散の最盛期に近い状況に突入しちゃいましたね。

幸い私は花粉症を発症してはおりませんが、
突然なってしまうらしいので、極力マスクを着用して用心をしています。

春先に目論んでいた「自主演奏」ですが、
「自主」だけに、失敗は避けなくてはなりません。
強引に推し進めて、「ケガ」する事になってしまうと、
「治療」が大変です。

春先と話していたのは、具体的には3月中旬にと言う計画でしたが、
そろそろチャントしないと時間的にも間に合いません。
若干慎重になり過ぎかも知れませんが、再度隊員に確認をします。

> 『春先』、つまり3月に自主演奏をする予定で話が出ていましたが、
本当にしますか？」

< 「・・・・(ｼｰﾝ)」
(なんとか言ってくれよ。)

> 「3月中に実施となると、そろそろキッチリした内容を決めた上で、
練習しないとイケませんよ。」

< 「・・・・(ｼｰﾝ)」
(ってなんで黙ってるん?)

> 「前回同様屋外演奏です。どうするの？」

< 「やろうや。」
(おっ、初反応。ホンマに考えた末の答えやろね?)

> 「では、業務の事を考慮して、時期は3月中旬でよろしいですね？」

< 「3月の屋外は寒いんちゃうん？」

(ホラ～。)

<「寒かったら音でえへんでえ。」

(ホラホラ～。)

<「もっと暖かくなってからは？」

(おいおい、どうするん?)

>「以前の様に誰かの指示待ちではなくて、

自主演奏なのだから、皆が決めなアカンねんで。

3月実施案ともっと暖かくなってからの実施案が出てますけど、どうする？」

<「ほな、温くなってからで。」

(コロッと覆るよなあ(>_<))

<「そうしよう！」

>「そしたら、3月実施は無しですね？」

<「(コックリ) はい。」

ちょっと前まで、「クリスマス～？」とか「春先～？」とか、
無責任に時期と場所の話をしていた隊員達ですが、
あっさり前言を変更して、
5月以降に再企画となってしまいました。

まあ、「屋外での自主企画演奏」ですので、
聴いて頂ける方々の事も考えると、
日によって温度の格差が大きい3月での企画も難しいとは思いますが。
以前のような、式典や行事での演奏を依頼で受けていた感覚は
捨てて考えなければなりません。

5月以降の暖かい時期に再企画するという選択も、

あながち間違えとは言えないと思います。

3月実施が、5月実施に変更になった事が隊員の全体に伝わったのでしょね。

練習の出席率が一気に悪化してしまいました。

(結局そうなるんや(T_T))

ガンバレ、消防音楽隊！ 1 1 5 話

やっと暖かくなったと思ったら、
急に冬に逆戻りしたり、
雷が鳴ったり、
強い雨が降ったり、
3月の空は不安定ですねえ。

私は今の時期が結構苦手です。
(と言っても、花粉症ではないですよ。)

この時期は、「出会いと別れ」の季節でもありますので、
それがどうも苦手です。

新しい事が始まる事は、
好奇心旺盛な性格ですので、
大歓迎なのですが、
「別れ」が全然ダメなのです。
さらに、
見送る方と、見送られる方なら、
見送る方がさびしく感じてしまいます。

そんな事を思いながら、ふと「桜」が咲いているのに気づき、
携帯電話で写真を撮ってみました。



お世辞にも上手には撮れてませんが、
こんな風に、
「桜」を写真に撮ったのは初めてです。


3月27日は、桜の日だそうですし、
「セレッソ大阪」の「セレッソ」は、
スペイン語で「桜」の事だそうです。
100円硬貨には「桜」がデザインされていますよね。
よく、「日本人は桜好き」と言われます。
『一斉に咲き乱れ、潔く散るところが、
日本人の人生観と重なるのではないか』と聞きます。

それも大きな理由だと思いますが、「桜」は春の代名詞であるとともに、
「出会いや別れ」といった人生の節目のそばで咲いているものでもあります。
これは、私たちが使っている、
4月からはじまり、3月で終わる「日本の年度」に
大きく影響しているのではないかと思います。

私は個人的には、
「別れの切なさ」が「桜」と結びついているから、
「桜」に特別な感情が結びついているのではないかなあと思っています。

個人的な解釈は別としても
「桜」にちなんだ曲は
ちょっと考えるだけでも、
滝廉太郎さんの「花」をはじめ、
福山雅治さんの「桜坂」、コブクロさんの「桜」、
ケツメイシさんの「さくら」、松田聖子さんの「チェリーブラッサム」、
森山直太朗さんの「さくら」とか、
すぐに何曲か出てきますね。

ウチの音楽隊で練習を始めても、
演奏する旬な時期には絶対間に合わないのが悩みの種です。
もし「桜」にちなんだ曲を、「桜」の季節に演奏するなら、
今から始めて、来年の春に丁度って感じです。

今月のお話は「桜」でまとめてみました(^^♪ 



(GFDL cc-by-2.5)

ガンバレ、消防音楽隊！ 1 1 6 話

先月は「桜」のお話の中で、
もし「桜」にちなんだ曲を、「桜」の季節に演奏するにしても、
ウチの音楽隊では、一年前から練習にかかって
間に合うかどうかで感じだとお話しました。

「桜」にちなんだ曲を選ぶとしても、

『選曲』はとても大切な選択です。

特に、お客さんがご存じの曲かどうかは非常に重要だと思っています。

演奏する側が演奏したい曲と、
お客さんが聴きたい曲が結びついて、
初めて有意義な演奏であったと言えると考えているからです。

音楽隊の演奏では、
ベビーカーに乗った小さなお子さんからご高齢の方まで、
本当に年齢差が大きいお客さんが聴いてくれます。

そこで全ての人のご存じの曲となると、とても思いつきませんが、
イベントやシチュエーション毎に
ある程度まではお客さんの傾向を絞る事が出来ます。

少ない「持ち歌」から、
お客さんの傾向を考え、自分達の演奏力を考え
選曲するようにしてきました。
自分たちが演奏したい曲とか
演奏出来る曲だけで選ぶと、
せっかく聴いて下さるお客さんの聴きたい曲と、遠くかけ離れてしまい、
結局お客さんに聴いてもらいたくない演奏なのに、
お客さんは誰も聴いていない、聴いても楽しくない、
そしてお客さんは誰も居ないって事になってしまいます。
(逆の立場で考えても、聴きたい曲ではなく楽しくもなければ、
別に聴く必要がないですもんね。)

以前、テレビ番組だったとは思いますが、
現在プロ・ミュージシャンとして大いに活躍しているユニットが、
メジャーデビュー前のストリートで演奏している時代に、
「立ち止まって聴いてもらうための時間は3秒」であると気づきました。

そこで、彼らが偉いのは、
「3秒毎に聴きやすいフレーズ」が出てくるように曲作りを工夫したと言う事でした。

これは大変興味深い話です。
「3秒」は決して長くない時間ですが、
事によっては短いとは言い切れない時間でもあります。

（「3秒間」で出来る事っていったら、
ウサイン・ボルト選手なら 30.96m移動してしまいます。
時速 100km では 83,3m、
光速なら地球を 22 周半しますね。
黙読なら 20 文字程度が可能かな？
お笑いのツッコミなら 4 回くらい出来そうです。
ドラムをやっている人なら、オルタネートで 30~40 回叩けます。
バスケットボールでは、オフェンスは相手チームゴールのペイントエリア内に、
3秒を越えて居てはいけないルールです。
腕子ソバ 1 杯なら食べれる人がいそうだなあ。
讃岐うどんの達人なら、うどん 1 玉を飲みこんじゃうらしいですよ。
唐揚げ好きの人は 2 つぐらい口に放り込めるかも。
でも熱くて口の中がヤケドするかもしれないです。
もし落としてしまっても心配ないです、
食べるモノ落としても、5秒ルールがありますから、
3秒なら絶対食べても大丈夫、超キレイなままのハズです。
ショットグラスのテキーラは一気飲みが普通らしいので 1 秒ぐらいですよ。
テキーラは一気にのんで、ライムをかじります。お塩ってスタイルもありかと。
小学校の同級生が得意だった「牛乳」の早飲みって 3 秒もかかってなかったなあ。
ああ、「牛乳嫌い」の私には、
あの光景を思い出すだけで、
う〜う〜ん 気持ちが悪い (>_<) 鳥肌になりそう)


音楽では曲毎にテンポ（速度記号）が定められていますが、
♩=120だと、3秒間で6拍、4分の4拍子にして1小節半の長さですね。

（一般に行進曲（マーチ）は♩=120のテンポで演奏するように言われています。
聴いている分には♩=120が心地よいのかも知れませんが、
実際に行進する場合テンポ♩=120では早く過ぎて、
曲のテンポに合わせて行進するのはとても大変です。
音楽隊で行進の伴奏をする場合や実際にパレードする場合は、
♩=108程度までテンポを落として気持ちゆっくり演奏しています。
逆に、パチンコ店で店内放送されている「軍艦マーチ」は、
気分を高揚させる効果を狙って、
テンポを上げた曲を流しているのは有名な話です。
同様に、バンドのライブ演奏などでは、お客さんのノリを良くするために、
わざとテンポを上げて演奏したりします。
CDなどのライブ録音の曲は、
スタジオ録音の時とテンポが違うのはこれが理由です。）

あれっ、なんの話でしたっけ??
そうそう、「3秒間」の話から外れてしまいました。
その3秒間に行きかう人々の耳を自分達に向けさせ、
立ち止まって聴いてもらう。
実際に3秒を計りながら歩いてみると4~5m歩けます。
この4~5mが重要なのでしょね。
素晴らしい「企画」だと思いました。

たとえ、そこまで照準を絞った選曲ではなくとも、
漫然と演奏したいだけの曲を「選曲」してはダメですし、
聴いてくださるお客さんの立場に立ててない「選曲」は、
聴いている人に、ただただ苦痛を与えるだけになってしまいます。

だから、選曲って難しいんだよなあ～

毎回悩みますねん (+o+) 

ガンバレ、消防音楽隊！ 1 1 7 話

「選曲」が決まったら、次は「曲順」です。

曲順もとっても大事です。

いくら労力を使って、選曲をしても、
盛り上がって終われるか、
聴いてくれた方々にいい感じに思ってもらえるかは、
曲順で決まる要素が大きいと思います。

イベントやシチュエーション毎に
お客さんの傾向を絞って選曲したはずですので、
大きな失敗をしない限り、
「ブーイングの嵐」になる事はないと思いますが、
聴いてもらえて喜んでもらえるように、
もっと工夫する手段としても、曲順を考えなければなりません。

もう一つ言うと、
自分たちが演奏する体力的な要素も考慮する必要があります。
最初から飛ばし過ぎて、最後はへろへろな演奏ってもの困ります。
かと言って、
力を温存するために、「お客さんの事は考えてません」なんてもってのほかです。

演奏する時間帯ってもの、
考慮しなければなりません。
これは、選曲する段階でも練られていなければなりませんかね。

お弁当を広げているような時間帯に
いきなりハードな曲をガンガン演奏されても、
迷惑になってしまいます。

逆に、炎天下でスローバラードナンバーを延々と流されるのも、
相当に限られたシチュエーションでない限り考えられませんよね。
屋内か屋外かでも、選曲と曲順は変わってきます。

とくに、夕方から日没後の時間帯にまたがる演奏などでは、
周りが明るい時間帯には、
それこそ明るくリズムのある曲を、
周りが薄暗くなってからは、
ちょっとムードのある曲をもってくとバッチリだと思います。

なにかの間違いで、これが逆順だと、
特に、明るいなかでのシットリ系の曲は、
「なんだかなあ〜」って感じになってしまいますので、
サラッと短めにの方が、大けがを避けられると思います。
(極めて、個人的な意見ですが。)

私は下手の横好きですが、ドラムを叩いたりします。
上手な訳ではないのですが、
5, 6分程度なら「ドラム・ソロ」も出来ると思います。
音階もない太鼓と金属音のシンバルを組み合わせただけで、
曲の伴奏がメインとして用いられるドラムですが、
「ソロ」となれば、
やはり、「曲順」を同じように
「起承転結」を考えて演奏内容の順番を組みます。
最後のクライマックスに向かって、ストーリーを考えて行く訳です。
「ドラム・ソロ」であっても、場当たりの演奏では、
なかなか聴いてもらえないと思っています。

ビギナーの段階、バンドなどでは、
それほどレパートリーは豊富でないはずですので、
選曲も大変、曲順も選択肢が極めて少なくて、
どうにもこうにもこれしか出来ないって状況で演奏に臨む事になってしまいますね。

ウチの消防音楽隊も、最初は選曲も曲順も選びようがありませんでした。

消防音楽隊ですので、絶対必要なのは「式典」で使用する曲です。
まず、その辺りから練習をせざるを得ない訳です。
で、とりかかるのは、「国歌」や「行進曲」「ファンファーレ」なんて感じですよ。

これでは、お客さんに聞いて頂ける選曲なんて言って選べません。

それともうひとつ。

初心者の集まりですので、最初から「いい感じの曲」なんて到底出来ません。
自然と「テンポがゆっくりで簡単な曲」を練習していく事になります。

演奏依頼があつて仕方なくお受けしたのですが、

依頼する側は、

「なんでも結構ですので、15分ほど演奏して下さい。」程度の
ザックリしたお話を持ってこられます。

依頼を受ける消防側は、

たいてい「お偉いさん」で話を承諾してしまっていましたので、
日にちと時間程度しか決まってませんし、
演奏曲にまで考えが及んでない場合が多かったです。

それで、「もう演奏依頼を受けたからなっ。」って段階でこちらに話が来ます。

仕方ないので、


「今はまだ、こんなのしか演奏出来ません。」とお断りをしてから
その時に辛うじて演奏出来る曲を数曲もって当日演奏に向かいました。
その全部が「行進曲」。

一応、演奏の最後の方に向かって盛り上がりを考えて、
曲順を決めて演奏したのですが、

その演奏を聴いていた「お偉いさん」から

「今日のは、同じ曲を何回も演奏してたのか?(-_-)」って言われちゃいましたけど。

(だって、これしか出来ないんですよ～(ToT))

言うのは簡単です (+o+) 

ガンバレ、消防音楽隊！ 1 1 8 話

選曲、曲順と決まったら、

次は「演出」を考えるのも良いかと思います。

プレーヤーが踊ったり、

同時に何人もが同じ振り付けをしたりと言う程度のものから、

特殊効果（「特効」）専門スタッフをお願いしたりと、

内容は千差万別で、

その費用も

「スマイル＝0円」から「一発＝〇〇〇万円」、

またはそれ以上の巨費が投入される場合もあるようです。

（よほどの「ビッグ」でない限り、そんなにお金かけられません。）

オリンピックの開会式も、

その演出を見せる為に行っているように感じる場所があります。

通常のホールやライブハウスなどでは、備え付けの備品がありますので、

照明やスモークマシンなど、

使用料の加算さえクリアすれば、簡単に演出効果を期待出来ます。

スポットライトなどはとても一般的な演出ですよ。

もし、備え付けの備品が使えない状況でも、

事情が許せば、

機材の「持ち込み」も考えられます。

配達・回収までお願い出来るレンタル業者もおられます。

そこまでしなくても、どん帳の上げ下げだけでも効果的に使えます。

（ロック系のバンドがコンサートをしている最中に、

落雷かなにかが原因で停電になったらしく、

コンサートホール内は突然真っ暗になりました。

勿論、マイクやギターも電気がなければ音がでません。

そんな中、電気がなくても音が出せるドラムだけが演奏を続けてその場をつなぎ、

この「真っ暗なコンサートホールでドラムだけが鳴り響く状況」に

お客さんたちは大興奮し、

暫くして、電気は回復したあとも、

コンサートの最後まで大いにヒートアップしました。
お客さんたちは、「スゴイ演出」だと思い込み、
最後まで「停電アクシデント」が作りだした偶然の結果だとは
知らなかったと言う話を聞いた事があります。)

ここまでは「屋内」での演出です。
しかし、大変なのは「屋外」。

当たり前ですが、日中は暗く出来ません。
雨、風、砂埃、日照り、騒音など予想しなかった事が起こりえます。
(演奏直前に雪になり、テントなどもなく吹雪の中で演奏した事もあります。)
「自然の力」にはどうしようもありません(>_<)
(風で譜面台が倒れるなんて序ノ口、
譜面入れのファイルが飛ぶ！
テントが飛ぶ！なんてのもありますし。)

屋外の場合は、考え過ぎぐらいに良く考え、
念入り過ぎぐらいに準備をして、丁度だと思えます。

屋外屋内を問わずに、「衣装」も演出の大きな要素ですよ。
音楽隊って名前が付く団体では、
大抵ミリタリーな感じの衣装が多く見られます。
(以前、「ツナギ」を着たバンドがヒット曲を連発していた事がありますが、
なぜツナギ姿なのですか？と質問され、
「お金がなく、バンド全員の衣装を揃えられるのはツナギだけだったから」と言う
回答でした。
でも、ツナギ姿の演出効果は抜群だったと記憶しています。)

打楽器では、ドラムスティックを回したり、
合せシンバルを回したりもしますね。

まあ、演奏者は楽器を持っているので、
演奏を犠牲にしてまでも、演出する事はないですから、
おのずと、限界がありますね。
大切な楽器を乱暴に扱えませんし、
壊れたら修理代も・・・(ToT)

しかし、
演出はスゴイのに、
演奏はイマイチってのが、
一番カッコ悪いです。
カッコを悪くする演出効果になってしまいますね。

あ〜、なにもかも演奏力次第。
結局、練習あるのみなんですよー(+o+)

P.S.

私ごとで大変恐縮ですが、
消防音楽隊にも、このHP「ガンバレ、」にも、
大変ご協力頂いた先輩が、事情により退職されました。
とても寂しい思いです。
長い間、お世話になりました。
この場をお借りして、お礼申し上げます。



ガンバレ、消防音楽隊！ 119話

「消防なんだから、『119』に因んでなにか特別に」と、

感じられるとは思いますが……。

前回の原稿を提出して、アップしてもらってから、

「あっ、次は、119だ！」って気づきました。

ということで、普通にゴメンなさい<(_)>

徐々にですが、

次の企画演奏を進める段取りが整いつつあります。

秋の人事異動をはさむ事もあり、

隊員の参加意思表示が手元に集まっていないので、

まだ確定出来ていないのですが、

10月に実施するつもりです。

116話から118話まで、「選曲」、「曲順」、「演出」と

お話をしてきましたが、

当然の如く、またまた苦心しております。

どうしたらいいかなあ～って悩みつつ、

なんとなく屋外階段に出て、

たまたま音楽隊練習室の方を見ると、

ツバメ(?)が屋根に並んでいました。



演奏中の指揮者と奏者の様に見えて、
音楽隊の練習風景にとっても良く似ているので、
また携帯電話のカメラで写真を撮ってしまいました。

まあ、楽器を持っている訳ではないので、
コーラス隊の練習風景にも見えますし、
先生に叱られている子供達にも見えますけどね。

多分、ウチの練習よりも行儀良いのではないかと思える程、
キッチンと並んでいるので、見ていておかしかったです。

さあ、企画演奏を目指して
我々も負けないように練習しなきゃ！

やっと、
ホルストの「吹奏楽の為の第一組曲」第三楽章「マーチ」も
お披露目の予定です。
あくまでも、予定ですけど（^^;

なにもかも、隊員達のやる気と努力にかかっております。
（だから、メッチャ不安(>_<)) 🎉